

海藻おしば協会指導者養成講座で講演

「海藻おしば」は、伊豆市在住の野田三千代さんが筑波大学下田臨海実験センターに勤務されていた時に同大学の横浜康継先生とともに始めた「海藻押し葉を糸口とした環境啓発活動」で、伊豆は発祥の地となります。野田さんが会長を務める海藻おしば協会では、毎年、海藻おしばの指導者を養成する講座を開催しており、今回そこの講演を頼まれました。



講演は4月10日に筑波大学臨海実験センターの講義棟で行いました。講演のタイトルは「伊豆の海藻 - テングサ、カジメ、磯焼け」で、内容は「テングサとは、テングサ漁業、遷移、カジメと磯焼け、磯焼けからの回復」といった伊豆分場の研究成果を紹介しながら、海藻と人間社会との関係 - 我が国では海藻は古来より社会と密接に結びついてきたこと、伊豆発祥の海藻おしばは現代の新しい海藻と人間の関係ではないかということ、変動する藻場 - 自然現象として藻場が変動すること、変動した藻場も人間による努力で元に戻すこと



とができるということを理解してもらいました。

今回の講演が、海藻おしば指導者のレベルアップに役立つことを願います。
(長谷川雅俊)